

先日、審判に関するスライドを3種類作成し、HP に掲載していただきましたが、審判検定試験の問題に準拠したものではありません。ここでは、スライド「ルールと審判員の処置」では扱うことができなかったルールの中で特に複雑なものについて解説を補足しています。スライドに掲載したルールや定義についてはここでは記載しておりませんので、スライドと併せまして参考にさせていただければ幸いです。

なお、HP 掲載の模範解答は正確を期して作成しましたが、配布用に作成したものではないため、解説が言葉足らずの部分があることをご了承ください。また、模範解答には特に難易度が高いと思われる問題に★印を付しています。

【ファウルチップ】

以下の①・②の場合、ファウルチップとなる。**ファウルチップは空振りと同様に扱う。**

- ① 打者が打った打球が鋭く直接ミットまたは手に飛び、そのまま捕球したもの。
- ② 打者が打った打球が鋭く直接ミットまたは手に飛び、他の部位に当たってから、地面に落ちる前に捕球したもの。

問 4 問題文の通りファウルチップ。上記の定義でいうと②にあたる。(答え ○)

【フォースプレイとアピールプレイ】

***フォースプレイ**

打者が「打者走者」になることで、前の走者が占有塁を明け渡さなければならなくなることによって起きるプレイ。

***アピールプレイ**

正規の走塁を行っていない走者をアウトにするためのプレイ。(正しくリタッチしなかった、ベースを空過した など)

問 7 正しくリタッチしていない走者をアウトにするための送球したプレイなので、アピールプレイである。(答え ×)

問 8 1塁走者、3塁走者ともリタッチ義務を果たしていない。フライを捕球した時点で2アウトとなり、1塁走者をアウトにすることで第3アウトをとっている。本塁を駆け抜けた3塁走者はリタッチ義務を果たしていないが、守備側からのアピールがなかったため、ホームインは有効で、得点が認められる。(答え ×)

【反則打球】

打者が、片足または両足を打席の外に置いた状態で打撃を行った場合。

打球のフェア・ファウルは問わず、自打球やファウルチップの場合でも、反則打球の対象になる。

(バットに当たった時点で足が一部でも打席に残っていれば反則打球にはならない。ライン上は打席とみなす)

問 9 バットに当たっていないので反則打球ではない。(答え ×)

問 10 反則打球の場合、打者をアウトとする。スクイズの場合も同様である。(答え ×)

問 29 打者はアウトとなる。(答え ×)

【塁の占有権】

その塁に触れている限り、野手にタグされてもアウトにはならないという権利。

他の走者がいない塁に触れる(進塁する)と、その塁の占有権を得ることができる。

一方、占有している塁を離れた場合、占有権は存続しているが、アウトにされる可能性がある。

アウトになった場合は占有権を失う。

また、他の走者に塁を明け渡す必要がある場合は「フォースの状態」となり、占有権を失う。

問 11 2塁走者は3塁ベースに触れているが、3塁走者が三本間に挟まれている間は3塁走者に3塁の占有権がある。3塁走者が3塁に戻ってきたのに2塁走者が3塁に残っていた場合、タグされればアウトとなる。(答え ×)

- 問 12 守備妨害が発生した場合、妨害を犯していない走者は妨害が起きた瞬間に占有していた塁に戻される。
この場合、2塁走者が妨害発生時に占有している塁は3塁ではなく2塁となるので、3塁に到達した走者は2塁に戻される。(答え ×)
- 問 49 3塁走者が3塁に戻ってきた時点で、3塁の占有権は3塁走者にある。たとえ先に3塁ベースに来ていても、3塁走者が3塁に戻ってきた以上、2塁走者が3塁の占有権を持つことはできない。(答え ×)
- 問 101 3塁走者がアウトになった時点で1アウト。3塁走者がアウトとなったため、3塁に占有権を持った走者が戻ってくることはない。よって、打者走者の守備妨害が発生した時点では1塁走者は2塁、2塁走者は3塁を占有できていたと判断して良い。(答え ○)

【牽制球】

右投手・左投手いずれも、プレートに軸足を入れた状態で、全ての塁へ牽制球を投げられる。

しかし、**プレートを踏んだまま1・3塁への偽投はできない。**(2塁のみ可。3塁への偽投は2014年度からブーク)
走者のいない塁へは牽制できないが、プレイの必要がある場合はその限りではない。

プレートから軸足を外した状態であれば野手と同様の扱いであり、上記のような規制はなくなる。

- 問 17 走者が向かっている塁へ投げており、プレイの必要があると考えられるので、ブークにはならない。(答え ×)
- 問 45 投手板を外していた場合は「野手の悪送球」として扱うので2個の安全進塁権。投手板を外していなかった場合は「投手の牽制球の悪送球」として扱うので1個の安全進塁権。(答え ○)
- 問 47 投手が両足をプレートに乗せた「ワインドアップポジション」をとっていても、振りかぶる前(投球動作に入る前)であれば牽制できる。投球動作と見分けがつかないものは不可。設問の場合、左回りなら牽制可能。(答え ○)

【振り逃げ】

1塁が空いている場面で、第3ストライクになった球(スイングしたかどうかは問わない)を捕手が正規に捕球できなかった場合、打者は振り逃げができる。2アウトの場合は、1塁に走者がいる場面でも振り逃げができる。

- 問 23 振り逃げを試み、打者は「打者走者」となっているため、走者はフォースの状態となる。3塁走者をアウトにするためには、捕手は3塁走者よりも早く本塁ベースを踏めばよい。(答え ×)
- 問 31 振ったかどうかではなく、第3ストライクの球を捕手が正規に捕球できたかどうかを基準。(答え ○)
- 問 67 振り逃げできないケースでは、打者にアウトを宣告するが、他の走者に振り逃げできないケースであることを伝えることはない。よって塁から離れてタグされればアウトになる。(答え ×)
- 問 68 2アウト満塁であれば問題文前半の捕手の対応が良いが、この場面は振り逃げできない場面なので打者はアウトになっている。捕手が本塁ベースを踏んだ時点では誰もアウトになっていないので、その後本塁を踏んだ走者のホームインは認められる。(答え ○)

【走者の追い越し】

正規の順序(本塁→1塁→2塁→3塁→本塁)で走っている場合も、正規の順序と逆に走っている場合も、**本塁から遠い走者(後ろの走者)がアウト**となる。

- 問 42 正規の順序で走っている場合となるので、後ろの走者である追い越した1塁走者がアウト。(答え ×)
- 問 43 「逆走」に該当する典型例。この場合も、本塁に遠い走者である1塁走者がアウト。(答え ×)

【故意落球】

0・1アウトで1塁に走者がいる場合(1塁、1・2塁、満塁)に、通常の守備を行えば容易に捕球できると審判員が判断した内野フライ・ライナーを、内野で守備をしている選手が**グラブや手に触れてから故意に落球した場合**に適用する。
捕れる打球をわざと落とし、ゲッツーをとろうとすることを防ぐためのルール。

※インフィールドフライとの相違点

- ・走者1塁のみでも適用する
- ・ライナーでも適用する
- ・バントでも適用する
- ・宣告後、ボールデッドとなる
- ・直接グラブや手で触れてから地面に落ちたものに対して適用する(インフィールドフライは、打球に触れなくても適用)

問 53 「グラブや手に触れてから」ではないので、故意落球にはあたらない。(答え ×)

問 54 問題文の通りの対応が正しい。(答え ○)

【走者が打球に触れる】

*ファウルゾーンで当たった場合→ファウルボール(アウトにはならない)

*フェアゾーンで当たった場合

①野手を通過する前に当たった場合、故意でなくてもアウト

②野手を通過した後であっても、他の内野手がカバーできる状況で当たった場合は故意でなくてもアウト
他の内野手がカバーできない状況であればボールインプレイ

問 57 他の内野手がカバーできる状況でない可能性が高い。故意でなければボールインプレイ。(答え ×)

【打撃妨害を生かすかどうかの選択権】

打者が1塁に生きて、なおかつ塁上の走者も1個以上進塁できた場合は、妨害とは関係なくプレイ続行。

打者走者・塁上の走者のうち1人でも進塁できなかった者がいる場合に、攻撃側の監督に打撃妨害を生かすかどうかの選択権が発生する。

問 58 打者がアウトになり、走者が進塁しているので、「1アウト1・3塁、得点0」か「2アウト走者なし、得点1」を選択する権利が生じる。(答え ×)

問 59 打者も1塁に生き、走者も進塁できている。よって打撃妨害とは関係なくプレイは続けられる。(答え ×)

問 60 進塁できなかった走者がいるため、「1アウト満塁、得点0」か「1アウト1・2塁、得点1」を選択する権利が生じる。(答え ○)

【空過した塁を踏み直せる時期】

踏み忘れた塁を踏み直しに戻れるのは、次の走者がその塁に到達するまで。

次の走者が踏み忘れた塁を踏んでしまえば、踏み忘れた走者は踏み直しに行くことはできなくなる。

問 70 2塁走者がホームインした時点で、3塁走者はベースを踏み直すことはできなくなる。守備側からアピールがなければ2点入る(追い越したことにはならない)。守備側からアピールがあれば3塁走者はアウトになり、「2アウト走者なし、得点1」となる。(答え ×)

【第3アウトと走者の生還のどちらが早いかをめぐるプレイ(タイムプレイ)】

第3アウトが**フォースアウトのとき**、または**打者がアウトになったときは**、走者の生還が第3アウト成立より早くても、得点は認められない。

問 95 この場合の1塁走者をアウトにしようとするプレイは、アピールプレイである。上記の2つの条件に該当しないので、第3アウトよりも前にホームインした3塁走者の得点は認められる。(答え ○)

問 96 この場合のライトからの送球で発生する1塁でのプレイは、フォースプレイではなくアピールプレイ。3塁走者のホームインは認められる。(答え ×)

問 97 打者がアウトになっているので、第3アウト成立よりホームインが早くても得点は認められない。(答え ○)